

ろう通訳士資格化 の必要性について

三澤 かがり

ろう通訳とは

- ・ コミュニティー通訳
- ・ 会議、学術通訳（国際手話通訳）

- ・ 韓国 2005年から資格試験開始
現在、有資格ろう通訳者
約250人（ろう連盟認定）
国家資格化へ運動中
- ・ 台湾 有資格者6人（ろう連盟認定）

「アジア諸国のろう通訳に関する調査」より

ろう通訳者とのCOで感じたこと

- ・ 「協働」の意義と重要性
- ・ DELKを有するろう通訳者の力の可能性
(Deaf Extra Linguistics Knowledge)
- ・ 幅広い情報の共有

「アジア諸国のろう通訳に関する調査」より

日本の手話通訳の特質

- ・ ボランティアから始まった手話通訳
- ・ 単一民族の島国日本

専門職としての位置づけ

- ・ 体系的知識を有する
- ・ 職能団体を有し、倫理綱領を有する
- ・ コミュニティーの利益となる
- ・ コミュニティーと法律による認知
- ・ 独自の文化を有する

(Magali Larson : 社会学者)

なぜ資格化が必要なのか。

- ・ 専門職としての認知と信頼
- ・ 法律による身分保障
- ・ 学習や研修の場の保障
- ・ 自己研鑽と倫理の遵守
- ・ 基盤となる文化を守る

そのために必要なこと①

- ・ ニーズの分析
 - ろう通訳をどのような人が必要としているか
- ・ 手話通訳関連団体の向かう方向の統一
 - システムイズされた集団の強み

そのために必要なこと②

- ・ 法律の後ろ盾
- ・ 資格の根拠となる必要な学力や知識の整理
- ・ 研修の場の提供
- ・ 社会的認知を高めるための活動、ネットワーク作り

なぜ手話通訳が存在するのか？



自由と幸福を追求する
すべての人の生活の充実と向上